



うちのイチ押し!

識字・日本語教室

私たちが住む地域には、さまざまな理由で文字の読み書きに不自由している方や、日本語の会話などで日常生活に不便を感じている人たちがいます。「識字・日本語教室」では、そのような方々と「よみ・かき・ことば」の学習を通じた交流を行っています。

識字・日本語教室の学習内容

- ・文字の読み書きや日本語の会話などを学びます。
- ・毎日の暮らしに必要なことや日本の社会や習慣について学びます。
- ・生活の中で困ったこと、わからないことを気軽に聞くことができます。
- ・読み書きや日本語を学習するだけでなく、さまざまな人と交流します。

学習者の声

- ・一緒に会話して、勉強できてたのしい。
- ・日常のことばがよくわかるようになった。
- ・毎回来るのがたのしいです。 ・相談相手ができた。
- ・だんだんかんじがよめるようになりたい。 ・書くことが好きになった。



学習支援ボランティアの募集

現在、各教室では学習者との対話を通じて、日本語や文字の読み書きなど、学習をお手伝いするボランティアを募集しています。

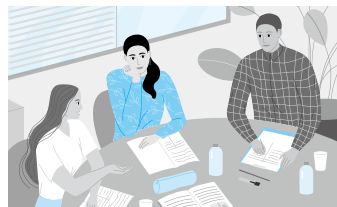
資格、指導経験、語学力は問いません。「教えるのではなく、ともに学ぶ」「文化・習慣・宗教などさまざまな違いを理解して相手を尊重する」ことを大切にいただける方を募集しています。皆さんの参加をお待ちしています。

教室は基本的に

- 週1回 ●約2時間 ●無報酬(交通費など自己負担)
- 学習者1人~数人に対して、ボランティア1人で学習(グループ、参加者全員で学習することもあります)

教室の開催について

小学校や生涯学習センターなど、身近なところで開催しています。教室の開催場所、曜日・時間は、各HPから検索してください。



- | | | |
|---------------|--------------|-----|
| 大阪市HP | しきじにほんごきょうしつ | で検索 |
| 大阪市生涯学習センターHP | しきじ・にほんご | で検索 |
| 識字・日本語センターHP | 教室をさがす | で検索 |

※学習者も募集しています。

お問合せ

教室・学習支援、ボランティア活動についてのお問合せは、大阪市教育委員会事務局生涯学習担当

電話 06-6539-3346 まで

ツイッターでも発信しています。

大阪市 生涯学習 公式アカウント

@osakacitymanabi

URL: <https://twitter.com/osakacitymanabi>



おおさか

歴史探訪

171

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

たいしょうないこう

大正内港—大阪の港湾開発の1ページ—

大正区のほぼ中央部、工場や住宅などに回りを囲まれた港があるのをご存じですか。ここを大正内港といいます。大正区の幹線道路、大型のトレーラーなどが行き交う交通量の多い大正通からわずかに逸れたところにあります。船が停泊し、ドックも見られますが、どこか時間がゆっくりと流れているような静かな港です。

大阪の港湾地区はこれまで外海に向かって西へ西へと開発がなされてきました。これにより市街中心地から距離が遠くなり港湾利用が不便になってきたうえ、地形的にも西風の影響を強く受けるようになり、港で行う作業にも支障を来すようになってきました。そこで、大正区内では内港化工事が昭和24(1949)年から進められるようになりました。

大正内港は、尻無川下流の左岸一帯、旧千歳堀東岸および西岸の一部を拡幅、川底の土砂を取り除く浚渫して船舶の停泊地を造成し、埠頭施設を建設し、主に国内の海上輸送を取り扱う港として計画・整備されました。

昭和9(1934)年の室戸台風によって大正区内全域が浸水、昭和25(1950)年のジェーン台風では満潮時の高潮と重なって区内の大部分が浸水、昭和36(1961)年の第二室戸台風でも甚大な被害がもたらされました。また、第二次世界大戦中は小康状態を保っていた地盤沈下も戦後の復興とともに顕著になり、年間数cm~10cmに達するなど深刻な問題となっていました。

内港化工事は大阪港湾地域に流入する尻無川などの河川の河口部を拡幅・浚渫して、浚渫による土砂は背後の低地帯に運んで嵩上げし、高潮被害と地盤沈下による諸問題をも一挙に解決しようとするものでした。そして、昭和50(1975)年に大正内港化の拡幅・浚渫は完了したのでした。

大阪の港湾の発達、災害と防災対策を伝えているとも言える大正内港、一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

(大阪市教育委員会事務局 文化財保護課)



大正内港(大正区千鳥3丁目付近から撮影)